

シンポジウムS1 オホーツク文化集団の動物資源利用に関する学際的調査・研究

Interdisciplinary research of the animal resource utilization by the Okhotsk people

オーガナイザー：佐藤 孝雄

10月8日（13：00～15：00）D会場

オホーツク海及び日本海北部沿岸域に展開したオホーツク文化集団が魚介類や海獣類に強く依存していたことは疑う余地がない。また、海産資源の捕獲・採集に勤しむ傍ら、彼らが一様にヒグマを信仰・儀礼の対象としていたことも周知の事実となっている。しかしながら、オホーツク文化集団の動物利用・動物信仰には、少なからぬ地域差・時期差が存在する。家畜(イヌ・ブタ)の飼育量と野生陸獣の獲得量に道北部と道東部で顕著な相違が存在した。道東部では特にシカへの信仰・儀礼が、オホーツク文化後期以降に盛行した。既報の出土動物遺体から指摘できる上記の考古学的事実は、一体何を意味するのだろうか。幸い近年、筆者らは、礼文島浜中2遺跡の発掘調査を行う中、オホーツク文化期の家畜遺体に良好な資料も収集、モヨロ貝塚ほか道東部の遺跡出土資料からも興味深い知見を得た。そこで、本シンポジウムではそれらの新知見も踏まえ、上記の問題を多角的かつ領域横断的に論じてみたいと思う。

講演

S1-1 オホーツク文化集団の動物利用と動物儀礼—地域差・時期差の検討—（佐藤 孝雄）

Animal utilization and animal rituals of the Okhotsk culture: with special reference to their chronological and regional differences (Sato, Takao)

S1-2 オホーツク文化集団におけるブタの飼育・利用（服部 太一）

Pig rearing strategies during the Okhotsk culture (Hattori, Taichi)

S1-3 オホーツク文化集団におけるイヌの飼育・利用（澤田 純明）

Zooarchaeological studies on ancient domestic dogs of the Okhotsk culture (Sawada, Junmei)

S1-4 オホーツク文化の同位体生態学（蔦谷 匠）

Stable isotope ecology of the Okhotsk culture (Tsutaya, Takumi)

S1-5 文献史料からみたオホーツク文化集団の動物利用（蓑島 栄紀）

The animal use of the Okhotsk culture judging from historical literature (Minoshima, Hideki)